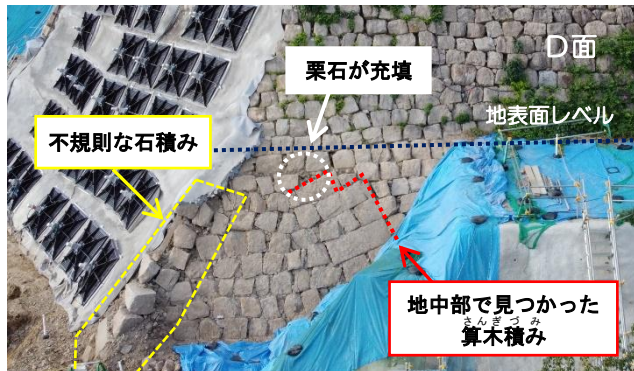


丸亀城管理室だより №13

D面試験掘削の結果

地中部で見つかった不規則な石垣がどこまで続くのかを確認するために、試験掘削をおこなったところ、幸いにも、健全な石垣が東に延びていることがわかりました。

地表面の1～2m下から、石垣の隅角部に用いられる、直方体の石材の長辺と短辺を交互に組み合わせて角をつくる技法（算木積み）で組まれた石垣が見つかりました。



【試験掘削をおこなった三の丸南面（D面）】

追加解体範囲を決定

11月14日、令和3年度第5回丸亀城石垣復旧専門部会が開催され、三の丸南面（D面）の追加解体の審議をおこないました。試験掘削の結果を受けて新たな解体ラインが承認されました。

解体範囲の変更に伴い約400石の石垣の解体が追加されます。



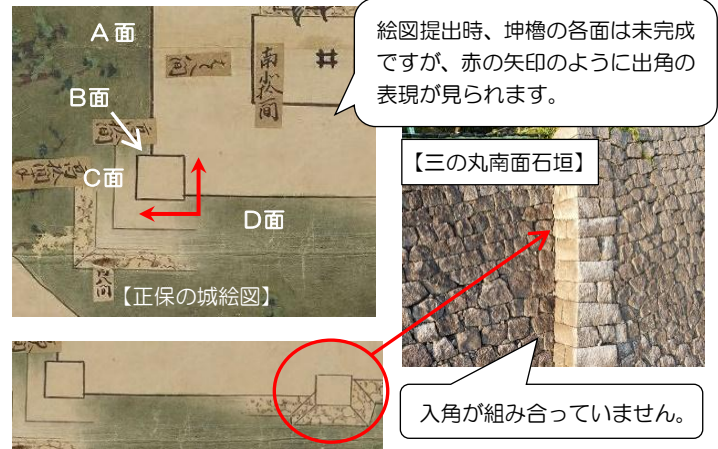
【石垣復旧専門部会の様子】



【承認された追加解体範囲（青のライン）】

ヒントは絵図にあり

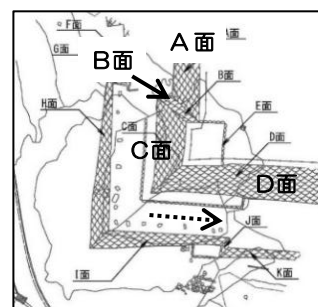
丸亀城は、元和元年（1615）、一国一城令により廃城となったのち、山崎氏により再築されました。山崎氏が幕府に提出した「正保の城絵図（1645）」には、築城途中の様子が描かれています。



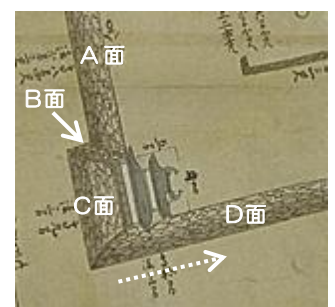
坤櫓が「ぼかし」表現であるのに対して、東側の櫓は石垣の描写がされていることから、坤櫓よりも先に完成していることがわかります。

坤櫓の石垣は、慶安2年（1649）、幕府から修築許可が出ており、わずか4年の間に破損し、築き直されていることがわかっています。

石垣の外観観察では、南面の石垣は、入角が組み合うことなく、角にぶつかるように積まれており、山崎氏時代の「丸亀城郭絵図（1657年頃）」に表現されているとおり、算木積みを用いて角をつくる構造が見られないことから、東西に延びる一直線の石垣に積み直されたと考えています。



【崩落前の三の丸坤櫓石垣】



【丸亀城郭絵図】



【写真提供：山地茂氏】

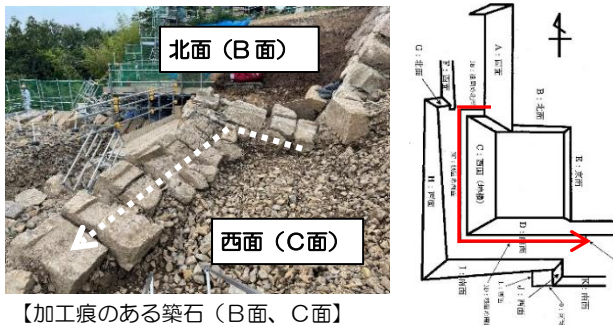
崩落前の三の丸坤櫓石垣の写真です。三の丸南面は隅角部がない一直線の石垣でした。

修復の証（三の丸に残る加工痕）

幕府の石垣技術者である「堀金出雲（ほりがねいずも）」が承応4年（1655）に記したとされる、最古の石垣技術書『石垣築様目録』には、次のような記述があります。

地盤の悪い所では、勾配に応じた土代木（どだいぎ）を組んで、根石の下に敷き込むことが重要である。このことで石垣は築き易くなり、又石垣の部分沈下も無くなる。それ故、常にこの心掛けが必要である。

標高32m 附近の地中石垣からは、胴木を敷設するため溝状に加工された築石と胴木痕が確認されています。



【加工痕のある築石（B面、C面）】



【E面の胴木痕】

【加工痕のある築石（C面、D面）】

三の丸に残る築石の加工痕は、北面（B面）に始まり、南面（D面）まで、坤櫓をぐるりと一周するように続いていました。

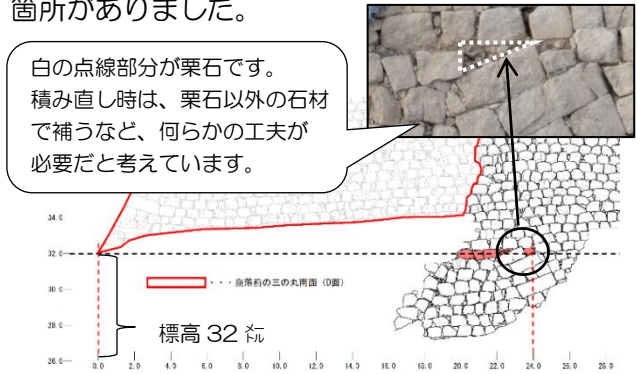
解体が終了している東面（E面）からも胴木が検出されており、胴木を用いて高さを揃え、修復されたと考えています。

『石垣築様目録』の土代木に関する記述には、続きがあります。

上層部の石垣に、土代木を敷き込み入れることは悪いことである。土代木が腐る故、下部石垣の栗石の上に直接、根石を置くこと。土代木は常時、水のたまる処でない場所に使用すると必ず腐るものである。

『石垣築様目録』の記述のとおり、検出した胴木は腐り、朽ちていましたが、三の丸埋没石垣1付近など、丸亀城では、これまでも高燥地（高く乾燥した場所）から胴木が見つかっています。

また、D面地中部から見つかった算木積みには、上面に栗石を詰めて、高さ合わせをしたと思われる箇所がありました。



白の点線部分が栗石です。積み直し時は、栗石以外の石材で補うなど、何らかの工夫が必要だと考えています。

積み直し時は、石垣の長期安定を考えると、胴木を再現することは難しいですが、長い年月を超えて先人の知恵と技術に出会うことができました。



【現在の復旧工事の様子】

（12月8日撮影）

加工痕の発見は、丸亀城のもつ本質的価値である「歴史の証拠」として、「文化的価値」の再評価につながるものだと感じました。

石材展示コーナーがリニューアル！

作業ヤードの有効利用のため、「石材展示コーナー」をグラウンドの西に移設し、リニューアルしました。マッチングシステムの紹介に加えて、回収した崩落石材の中から、特徴のある石を選定して展示しています。新しく仲間に加わったのは、丸亀城初代藩主、生駒氏の家紋「波引車（なみひきぐるま）」の刻印が残る築石と、岩から石を切り出す際に用いる「大割り（おおわり）」の矢穴痕が力強い築石です。



岩の曲線が残り、餃子みたいですわ。

冬のお客さま

お城のお堀にカモがやって来ました。渡り鳥のカモは寒い冬を越すために、長い距離を飛んで移動します。春先頃まで、お堀で泳ぐカモの姿が見られますよ。



【可愛い子ガモに会えるかも！】

作成：丸亀市教育委員会 文化財保存活用課
丸亀城管理室 TEL0877-23-2107